

1

ボストンへ、旅立ち

Preparation

いよいよボストンへ向かって出発の日が決まりました。出発するまでの日々、余裕をもって、引越し準備を着々と進めましょう。海外旅行の経験があっても、海外赴任となると事情は全く違ってきます。言葉がよく分からなくても焦らず、一步一步、進んで行きましょう。



日本で済ませてきた方がよいこと

ボストン出発のために必要なのは、パスポートの手配、ビザの申請、各種の事務手続き、引っ越しの荷作り・発送などです。時間的に余裕を持ってスケジュールを立てましょう。ここでは、出発前にこれだけは済ませてきた方がよいと思う事柄について説明します。

出発までにする手続き

●パスポートの取得

各都道府県の旅券課に申請する。取得まで約 10 日間かかる。自分で申請する時間のない人は、旅行代理店で代行してもらえる。パスポートは、すべて数次旅券で、発行日から 5 年間と 10 年間の二種類のどちらかを選択する。ただし 20 歳未満は 5 年間。

●ビザの取得

渡航目的により種類が異なる。提出書類や取得にかかる日数も異なるので、早めに準備し申請する。申請は最寄りのアメリカ大使館、アメリカ領事館で行なう。また、旅行代理店でも代行してもらえる。

●役所の手続き

国民年金は市町村役場に届けると、渡航中は加入者から除外されるが、帰国後再加入できる。健康保険も市町村役場に届け出る。赴任中は、被保険者の資格・義務はなくなる。また、両方とも希望すれば海外生活中も、赴任地から送金することで継続が可能である。

●税金

一年以上の滞在の場合は、税務署に非居住者の届け出をすることで住民税は課税されない。家・土地などの固定資産税は、納税代理人を決めて市町村役場に届け出る。また、留守中の海外送金や支払い代行などをしてくれる銀行もあるので、利用するのもよい。

▼私は日本人！？

英語力に自信のない私は、「単語をもっと覚えなければ！」と焦っていたのですが、アメリカに来てつくづく思ったのは、自分が日本の文化をよく知らないということ。相手は「和食について」とか「マンガについて」などと尋ねてくるのに、その知識がないといくら英語力があっても答えられないのです。日本の文化をもっと勉強する必要があると感じました。

●車の処分

車の処分には、名義者の「印鑑証明書」が必要。転出届をすると印鑑証明の登録も消えるので、名義変更などの手続きは早めに済ませる。

●その他の届け出

市町村役場への「転出届」、郵便局への「転居・転送届(実家などへの転送)」、電気・ガスなど各種公共サービスの「解約通知」を提出する。銀行に口座を残しておく場合、転居先として実家などの住所を届けておく。

引っ越しのスケジュール

「引っ越しノート」を作り、旅立ちまでのスケジュールに必要なもの、荷作りの手順、あいさつ状送り先リスト、その他すべきことすべてのチェックリストを作成し、記入していくと便利である。

●荷物発送計画、引っ越し業者との打ち合わせ

持って行く物、国内に残しておく物とに分け、費用の見積りを出してもらう。

●国内に保管するもの

家財道具の保管は、親、友人などに頼むか、または多少費用はかかるが、専門の業者に預けるかを検討する。

●荷物の発送

◎船便

少なくとも出発 2 ヶ月前には荷作りして発送する。かさばる物、重い物、すぐに必要でない物などを送る。同じ種類の物を一箇所に入れないで分散させ、重要な書類などは必ずコピーを取って別々に送るようにするとよい。

◎航空便

出発の 2～3 日前に送る。着いてすぐ必要な物と、船便の荷物が着くまでの生活に最低限必要な品を送る。

◎手荷物

身の回り品と貴重品は一緒に持って行った方がよい。機内に預けられる荷物は、大きさと個数が制限されている。また、重量制限を超過する荷物には、超過料金が加算される場合もある。

●出発までのチェックリスト(例)

◎諸手続き

- パスポート・ビザ
- 航空券の手配
- 学校関係の書類
- 国際免許証
- 住民登録の転出届
- 固定資産税の納付代理人の手配
- 未納税金などの支払い
- 公共料金その他の銀行振替停止手続き
- 郵便局
- 連絡先の整理とあいさつ状
- 定期購読物
- 各種保険の手続き
- 住宅・自動車の処分
- 重要書類の整理と保管

◎引越し用買い物リスト

- 衣料、食品、雑貨
- おみやげ

◎引っ越し

- 引っ越し業者の手配と打ち合わせ
- 残す荷物リスト、トランクルームの手配
- 別送荷物リスト、携帯荷物リスト
- 引っ越し荷物の保険
- 不用品の処分

◎健康

- 全員の健康診断・診断書
- 予防接種の記録
- 母子手帳
- 常備薬

◎その他

- クレジットカード
- デビットカード、現金
- 緊急連絡先

アメリカの学校へ提出するもの

子供についての英語の参考資料が必要となる。「在学証明書」「成績表」「行動の記録」「予防接種の記録」などをそれぞれ英文で用意する。

健康診断

出発前に余裕をもって健康診断を受け、悪いところは治しておくことが必要である。持病がある場合は、英文の経過報告書と、薬の化学名(日本語での商品名は通用しない)を持って来るとよい。また、過去に大きな手術をした人や妊娠中の人も、英文の報告書を持参するとよい。海外へ出かける人のための健康相談や健康診断のサービス団体がある。

◇オーバーシーズ・メディカル・コンサルタンツ(OMC)

〒213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延 3-24-1-102 ☎(044)865-3161
www.faminet.net/omc

WHO 勤務経験医師による医療情報提供、および海外赴任者・家族のために母子手帳、健康診断書等の翻訳を請け負う。

◇SOS ジャパン

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-2-6 住友不動産新赤坂ビル 11 階
☎(03)3560-8161 www.internationalsos.co.jp/index.html

現地の日本人医師紹介や医師の派遣、緊急時の海外からの電話受け付け(会員制)など海外緊急医療支援サービスを提供。

●子供の健康診断

乳・幼児は、出発前に必ず健康診断を受けてくる。「母子手帳」は忘れずに持参する。「出生時の体重」や受けた「予防接種の記録」はあらかじめ英訳し、年号も西暦に直しておくとう便利である。アメリカの学校が確認する予防接種の種類は、次のようである。

- ・ 各種混合(ジフテリア、百日咳、破傷風など)
- ・ 小児麻痺
- ・ 種痘
- ・ ツベルクリン検査

なお、アメリカには「BCG 接種」がないため、検査の時ツベルクリン反応が「陽性」と出た場合、「結核菌保有者」として扱われる事がある。日本とアメリカの予防接種制度の違いから生じることなので、違いを説明できるようにしておくとうよい。陽転した年月は覚えておく。

●歯の治療

アメリカに来てすぐには保険の使い方や医師の選び方がわからず、また英語にも自信がないうちに治療を受けなければならないのは大変である。治療が必要なところは、日本で済ませてきた方がよい。

●薬の通関・郵送の際の注意

通関の時、白い粉末状のものは麻薬と疑われることがあるので注意する。薬品の英語名がすぐ目にふれるようにし、家族の誰の薬かを明記する。郵送の場合は、個人の常備薬として日用品などと一緒に送る。

日本から持参するとよいもの

ボストンでは、生活に必要なものはほとんど手に入るし、日本の食料品についても、ボストン市内や郊外にいくつかあるアジア系食料品店などで間に合うことが多い。また食料品の他にこれらの店の掲示板には、不要品を譲りたい人や日本に帰国する人の売り出し広告が掲示されているので、それを利用する方法もある。無理に日本からいろいろなものを持って来る必要はないが、あればとても便利というものもあるので、参考にするとよい。

	品目	アドバイス
衣類	パーティー用の着物・ドレス	必ずしも必要でない。一般のパーティーは普通のドレス・スーツで間にあう。着物はほとんど着る機会がない。日本文化紹介のためなら、訪問着程度の着物が一着あれば十分。
	子供服 子供の着物	当座必要なもの。アメリカでは安くて丈夫なものが手に入る。子供用着物は持ってくると便利。特に浴衣。
	下着	こちらのサイズは一回り大きく、特に小さいサイズはあまりないので持参するとよい。紳士用アンダーシャツは丸首、V首が多く、U首の物は少ない。薄手で七分丈のステテコは見当たらない。子供用下着、寝巻き、女性用ストッキングは持ってくるとよい。
	靴下	上質になると高価。サイズは日本製が繊細で合う。
	ハンカチ	アメリカでは使う機会が少ないので、売っている種類も少なく白、無地程度が多い。女性用はない。
	防寒着	寒さや生活スタイルが日本とでは異なるので、こちらで調達するほうがよい。

▼女性用ハンカチがない！

日本では手や汗を拭いたり、ひざに置いたりしてハンカチを使用する機会が多いので、手拭用から高価なおしゃれ用まで多種多様に揃っています。しかしアメリカではお手洗いには必ずペーパータオルやハンドドライヤーが完備されていて、ハンカチを持たなくても不自由しません。またレストランではナプキンが各自に用意されているので、それほどハンカチの必要性を感じません。従ってデパートなどでは女性用ハンカチ売り場が見当たりません。ちなみにこちらでハンカチを使うのは主に鼻をかむ時のようです。

食器	和食器	人を招いての食事の場合、和食器があると華やか。大皿が便利。形が不揃いの和食器は収納場所をとるので、普段用に使用頻度の高い飯碗、汁椀、湯呑み、急須などをとりあえず持ってくるとうい。
	洋食器 グラス類	パーティーには大皿が役立つ。ディナーセットはアメリカで買うほうが安い。食器は偶数単位で揃える。
	漆器	高価な本塗りの漆器類は乾燥でひび割れするので持ってこないほうがよい。ベークライトで十分。寿司桶、松花堂弁当箱などがあるとパーティーにも使えて便利。
日用品	台所用品	日本で使っていたものをそのまま持ってくればよい。
	電気製品	電圧の違いがあるので、日本で使っていた物は変圧器(120V→100V)をつないだほうが安全。
	理髪用品	自宅でカットするなら使い慣れた道具を持ってくるとうい。
	スリッパ	アメリカの slippers は、日本の物とは用途が異なる。靴を脱いでスリッパをはく生活をするなら、持ってくるとうい。
学用品・本	文房具	消しゴム、シャープペンシル、替芯、鉛筆などはこちらでも手に入るが、当座の分だけでも持ってくるとう便利。下敷きはない。
	本	読み物としては、ボストン日本語学校にある日本語図書館(P127 参照)の本を利用できる。手芸や料理などの趣味の本はがあると重宝する。
医療・美容用品	常備薬	家庭の常備薬を多めに持ってくるとうい。服用方法の注意書きもあわせて持ってくる。
	体温計	アメリカ製は華氏なので、摂氏の体温計を持ってくるとう分かりやすい。
	ガーゼ さらし	いろいろな使えるのであるとう便利。
	氷枕	アメリカにもあるが、使い慣れたものがよい。
	眼鏡、コン タクトレンズ	予備を持ってくるとうい。コンタクトレンズのケア用品は豊富にそろっている。
	生理用品	生理用ショーツは持ってきたほうがよい。
	化粧品	当座の分は用意してきたほうがよい。生活に慣れてから自分の肌、気候などに合わせてこちらで買えばよい。
その他	趣味の道具	日本画、手芸用品、碁石、将棋の道具、麻雀セット、花用鋏、剣山、お茶道具など。
	土産品	菓子類が無難。
	電子機器	アメリカでももちろん買え日本語設定も簡単にできるが、当面はあれば持ってきたほうがよい。

アメリカ生活と保険

アメリカでは、事故やトラブルに備えて自分の身を守るという発想で各種の保険がある。「自分の身の安全は自分の責任で守る」という姿勢は日本とかなり違い、また保険に対して様々な需要があるため、保険の種類も保険会社も多種多様である。

日本企業の駐在員は、普通会社が加入している団体保険 (Group Insurance Plan) に入っているが、その加入している保険の内容をよく理解しておきたいもの。いざという時に保険金でカバーされない場合や金額的制限などがあるので、あらかじめ理解しておくことが必要である。個人でアメリカに来ている人 (研究員、留学生、自営業など) は、医療保険、自動車保険、損害賠償保険には最低限加入しておくことをすすめる。医療保険と自動車保険については、「医療」「運転免許証と車」の項で記述する。

生命保険 (Life Insurance)

アメリカの生命保険は、死亡時の保障を重視するもの、積立型、年金型など、日本と同様に極めて種類が多い。また、それらの特徴を組み合わせた保険商品を選ぶことも可能である。これらは一般的に 10～20 年の長期契約となっている。

●日本国内で加入済みの場合

すでに日本で生命保険に加入しているなら、海外滞在中であってもその保険は有効である。死亡・高度障害に対してはどの保険もおとりし、入院・手術給付金も支払われる。ただし、海外に長期間勤務することが決まった後になると、日本国内での保険の加入や増額が不可能となるので、できれば赴任が決定される前に、滞在期間なども予想して十分な保険に入っておくほうがよい。また赴任後も保険料の不払いが起らないように気をつける。なぜなら、いったん効力が切れると海外滞在中の保障が失われるだけでなく、帰国後の再加入も年齢が上がっているなどの理由で不利になるからである。

●短期滞在、長期滞在、永住の場合

長期滞在、または永住の場合には、アメリカの生命保険会社の生命保険への加入をすすめる。しかし、数年間の短期滞在であれば、期間を限った掛け捨て型の保険がよい。アメリカンエクスプレスなど大手クレジットカード会社による通信販売形式の保険はこのタイプの典型である。この掛け捨て型は、一般に健康診断などの審査も省略されていて、加入は簡単である。

海外駐在員総合保障制度

日本の損害保険会社が、特に海外駐在員を対象とした保険パッケージ商品を出している(例えば、AIU 保険会社の「総合 Protection」など)。これは失火による家主への賠償、アメリカの自動車保険の限度額を超える賠償責任のカバーなどを含む総合的な賠償責任保険で、オプションとして死亡・障害あるいは医療保険とセットすることができ、ほとんど全ての保障をこの保険でカバーできる。

◇AIU 保険会社

東京都千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20 階
www.aiu.co.jp

保険に加入する時の留意点

- ・アメリカには、2,000 以上の保険会社があり、倒産も日常茶飯事であるので、会社や知人の紹介で必ず信用のおける会社を選ぶこと。
- ・加入する際には、保険会社の代理店 (Insurance Agent) が身近な窓口になる。細かい説明や交渉が必要なので、英語に不慣れなうちは日・英語に堪能な人に相談に乗ってもらおうとよい。不明な点、不思議に思った点は、確認ミスということもあるので必ず問い合わせること。
- ・すべての保険は、効力の開始日と終了日とが定められている。必要な時に保険が切れているということのないように有効期間に注意。
- ・加入本人から解約・中止の申し入れをしない限り、多くの保険は更新する仕組みになっている。帰国の際に不要となる保険は、きちんと解約すること。期間未了分の保険料が返ってくることもある。
- ・アメリカ国内での引っ越しや帰国時の運送にかかる保険の確認も忘れないようにする。
- ・住居・家具をレンタルする時には、失火・盗難保険などの責任関係を貸主との間で明確にしておく。